

女子的☆キャリア図鑑5

武内美貴乃さん

キャリアコンサルタント

若者のためのキャリアデザイン支援室「fきゃる」勤務

「キャリアチェンジへの挑戦」

2017.3.8

専

業主婦から広告会社の営業事務へ

工業高校で学んだ「化学工学」を生かし、

理系の仕事に就いた。六年後、結婚を期に退職した。長女が生まれ専業主婦として頑張った。子供が幼稚園に通い始めた頃から、仕事を続けている人が羨ましく感じるようになり、社会から置いていかれる焦燥感がだんだんと膨らんでいった。次第に社会復帰を考えるようになった。子供がまだ幼稚園だったので、家庭と仕事の両立を考えながら「時間と職種」で仕事を探した。三十三歳の時、新聞チラシの「広告会社の営業事務：午前中勤務」に応募し採用された。一年後には家族と相談して正社員としてフルタイム勤務する事になった。

広

告会社が倒産し仕事を探すことに

楽しんで働いていた広告会社が倒産し、三十九歳で職を失った。六十才までの「安定」を考えたら年齢的に次のチャンスはないだろうと思った。ハローワークから、大手製紙会社の試験員の求人案内があった。「安定」を求めているが「一年更新の契約社員」という雇用形態であった。ここに抵抗があったが、面接の際に「これは、書類上書いてあるだけの事なので、定年まで勤めて下さい」と言われ勤めることになった。実験的な仕事は面白く大

好きだったが、職場の人間関係に三年くらい悩むことになった。たまたま見たテレビで「会社は仕事をやる場所で、友達を作る場所ではない」との言葉を聞き、救われた。どこかで人と仕事について、深く考え過ぎていた自分がいた。その意識を切り替え別の何かに集中しようと思通信教育を思いついた。そこで「第一衛生管理者」の勉強をし資格を取った。その後特に次に何するかを考えていなかった自分に、上司が環境関係の国家資格「公害防止管理者」の受験を勧めてくれた。自分たちが吸っている大気がどうなっているか自分も興味があったので受験をすることに。必死で学びダイオキシンをはじめ順次資格を取っていった。これは自分の仕事にも生かせ、仕事への充実感は増していった。

同

僚から「どれだけ仕事人間なんだ」

仕事が楽しくなり頑張る私に、同僚からこんな事を言われ、再び人間関係に悩むことになった。そんな時、新聞広告で「産業力ウンセラー養成講座」の案内を知った。興味を持ったが次女が高二で、一年後子育てに区切りがつき、同じ気持ちだったら勉強しようと考えた。一年後、四十七歳で養成講座に通うことにした。七ヶ月間の通学、受験を経て合格となり「やれば出来る」ことを教えてもらった。同期とのこの合格祝いの席で「武内さんも、キャリアコンサルタントの勉強に行こうよ」との声に私は導かれるように、「キャリアコンサルタント」を学ぶ道に入っていた。その後、更にキャリアデザイ



f

きゃるキャリアコンサルタントに

就職面接会で現在勤めている「fきゃる」を知った。利用対象には、おおむね四十歳までと書いてあった。五十歳であった私は、駄目もとで電話し「fきゃる」で相談者としてカウンセリングを受けられることになった。そこでの話で自分の気持ちを整理することが出来、実際のキャリアコンサルタントの仕事も知ることが出来た。この駄目もとの一本の電話・・・このアクションが今ここにいる自分と繋がった瞬間であった。

自分がキャリアコンサルタントになって強く感じることとは「資格取得は、ルールではなく、取ってからどう動くか」という事で、資格取得後「誰の為にどう動くか」の重要性を強く感じた。

最後に、自分がこれまで培ったものをどう自分らしく生かして行くかは、まず自分の決断に誇りを持ち、自分にとって譲れないものを大切にすることだと考えている。自分のキャリアデザインを描きながら...

若者のためのキャリアデザイン支援室

fきゃる

TEL/FAX:0545-32-6958

協力株式会社マイ・ロード

